

令和5年度 千葉市教育研究会社会科部会

小学校花見川・美浜区ブロック 11月例会

社会科学学習指導案

千葉市教育研究会社会科研究主題

新たな社会の担い手として生きる力を育む社会科学学習
～児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせる問題解決的な学習を通して～



社会科学学習指導案

1 小单元名 火事をふせぐ

2 单元について

本小单元は学習指導要領第3学年の内容（3）アの（ア）「消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること」、イの（ア）「施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること」を受けて扱うものである。

児童はこれまでに学校周辺の地域の特徴や千葉市の様子、スーパーマーケットを中心とした店の仕事について学習してきた。それぞれの単元で、ギガタブを用いて写真や地図から千葉市の様子を読み取ったり、実際にスーパーマーケットに行き、店の工夫や働く人の思いなどを見学・調査したりして、学習を進めてきた。調べまとめる活動を通して、だんだんと自分たちの見えないところ・知らないところで働いている人がいて、その存在に支えられて生活できていることに気が付き始めている児童がいる。しかしながら、表面上の見える部分のみを捉えている児童も多い。

本小单元では、火災から人々の生活を守る役割を担う「消防」について調べていく。消防署の方々は季節、天候問わず防火衣を着て訓練に励んだり、消防自動車や道具、消防施設の点検をしたりするなど、火災から人々を守るために24時間体制で任務に当たっている。また警察署などの関係機関とも相互連携して火事に対応したり、地域の消防団や町内会と協力して火災の防止に努めたりしている。本小单元の学習を通して、消防署の役割は消火活動など見える部分だけではなく、日々の訓練や消防施設の点検、火災予防の呼びかけなど児童からは一見気付きにくい見えない部分の努力もあることを理解させていきたい。

本学級の児童は、社会科の学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。身の回りの社会的事象に関心を持ち、素材である写真や地図から多くのことを読み取ろうと学習に臨んでいる。一方で調べてわかったことや考えたことを自分の言葉でまとめることを苦手としていたり、学んだことをどのように生活に生かしていくのかイメージできなかつたりする児童が多い。そのため、各単元で学習のつながりを意識させる指導を続けてきた。学習の初めに前時の学習問題とまとめを発表させたり、千葉市の特色を調べるときに学校の周りの特色を振り返ったりさせるなど、单元内もしくは单元と单元のつながりを大切にしてきたが具体的にイメージできている児童は少ない。

そこで本小单元では、学習してきたことを踏まえ、自分たちができることを考えたり、ポスター等で他クラスに伝えたりしていく。それらの活動を通して、火事を防ぐために自分たちが地域の一員として協力していこうとする気持ちを醸成させていきたい。そのために、まずは火事から暮らしを守る人たちの働きについて関係図でまとめていく。そして、その中に自分のできることを書き込んでいく。関係図に自分のできることを書き込んでいくことで、これまでの学習とつなげながら考えることができ、社会の中で自分ができることを具体的に考えられるだろう。单元を通して、火事からわたしたちの暮らしを守るために、関係する様々な仕事の人や地域の人が協力して、火災予防や消火活動に努め

ていることを理解し、地域社会の一員として自分たちにもできることがあり、地域の消防に貢献して
いこうとする態度を身に付けられるようにしていきたい。

3 児童の実態＜アンケートをもとにした考察＞

図や表、グラフ、資料の読み取りや調べてわかったことや考えたことを自分の言葉でまとめること
について、自信をもっている児童は比較的多い。しかし、「店の仕事」の単元において、新聞にまとめ
る学習をしたが、スーパー見学で見たこと・聞いたことを意欲的に記入している児童は多かったが、
自分の生活と結び付けて書いている児童は少なかった。友達に自分の考えを伝えられる児童は多い。
特に、グループやペアで行う場面では、意欲的に考えを伝え合っている姿が見られる。

以上のような意識調査を受けて、「つかむ」の場面では、消火活動のイラストを提示する際は、全体
を見せず、はじめは一部分のみを写して周りの様子を想像させたり、グラフを読み取る際は、単年ず
つ見せたりする等、イラストやグラフの提示の仕方を工夫する。このようにすることでイラストやグ
ラフの読み取る部分を焦点化できるため、図や表、グラフ、資料の読み取りを工夫する必要がある。

次の「調べる」の場面では、自分の考えを言葉で表現できるよう、素材と向き合い、読み取る時間
をしっかりと確保する。そして、集めた情報を基に問いについて考えたことをグループやペアで話し
合わせることで、自分とは違った視点からの考えを知り、視野を広げていけるようにしていきたい。

火事が起きたとき、119 番にかけるということを知っている児童は半数しかいなかった。また 119
番にかけると消防署につながると思っている児童が全体の 7 割であり、ちば消防共同指令センターの
存在を知っている児童は一人もいなかった。実際に消火されるまでの流れを細かく理解している児童
は少ないことがわかった。火事を消すために消防士以外の人たちが協力していると思っている児童は
半数以下であり、消防士についても消火活動以外の活動内容を知っている児童は少なかった。消防施
設については、消火器と非常口の案内板を除いて地域や学校で見たことはあっても何のためにあるの
か知らない・考えていない児童が多かった。火事を防ぐために協力している人の存在やその人たちが
どのような形で協力しているのか知っている児童はほとんどいなかった。自分自身を地域消防の担い
手と考えている児童は半数近くであり、児童が火事を防ぐための行動をとっていないことがわかる。
自分がしていることがあるとした児童についても、実際に火を使用するときに注意することや避難訓
練など身近なことについてのみ挙げている児童が多かった。

以上のような学習調査を受けて、まずは火事から私たちの暮らしを守るために多くの機関が協力し
ていることに気付かせたい。消防署の方々以外にも学校や地域にある消火器や感知器、消火栓などの
物（消防施設）の存在や、警察や病院、ガス会社などの人の存在、そして消火活動の中心となってい
るちば消防共同指令センターの存在など、多くの存在があることを地図やフローチャートにまとめて
いくことで実感を伴うようにしていきたい。そして、「まとめる」の場面では、調べたことを関係図に
まとめていく。関係諸機関それぞれがどのような役割を果たしているかをまとめるだけではなく、機
関と機関がどのような形で関わり合っているのか矢印と文で表すことで、一つ一つの機関の力だけで
はなく、関係諸機関が連携・協力することも大切であることに気付かせたい。

また、火事から暮らしを守ることができる存在として自分自身を挙げていないという実態から、地
域の安全を守るために自分にもできることがあるという気持ちを育てていきたい。関係図に自分ので
きることを書き込む形でまとめることで学習成果とつなげながら考え、社会の中で自分ができること
を具体的に考えられるようにしていきたい。

4 知識の構造図

中心概念

火事から地域の人々の安全を守るために、消防署などの関係機関は相互に連携して、緊急時に対処する体制をとったり地域の人々と協力したりしながら火事の防止に努めている。⑩

まとめる

具体的知識

火事が起きると、消防士が現場に到着して消火活動を行い、さまざまな人が協力して消火や救助活動を行っている。①

校内には、万遍なく感知器や消火器などの消防用施設が設置されており、それぞれの設備には役割がある。③

地域には、消火栓や防火水槽が設置されており、火事などの災害が起きたときのために、避難場所も定められている。マンションにも、送水口やスプリンクラーなどの消防施設が設置されている。④

火事が起きたとき、様々な関係機関が、通信指令室を中心としたネットワークを活用し、相互に連携して迅速に対応する体制を取っている。⑤

消防署の方々は、地域の安全を守るために、火事が起きたときに迅速に対応している。また、日頃から火事に対応するための訓練や火災予防するための訓練も行い、火事に備えている。⑧

消防団は、地域の人々が集まり、消防署と協力しながら火事に備えて訓練したり、防火を呼び掛けたりしている。また、自分たちの住む地域には幕張ベイトウン自治会連合会という組織があり、自主防災のために活動している。⑨

地域の安全を守るために、自分たちが協力できることを考え、実行に移すことが大切である。⑪⑫

・消防士
・警察
・消防自動車
・救急車

・感知器
・防火扉
・消火器
・消火栓

・防火水槽
・消火栓
・送水口

・セーフティーちば
・ちば消防共同指令センター
・119番

・訓練
・点検
・予防
・防火衣

・消防団
・幕張ベイトウン自治会連合会

用語
語句

つかむ

調べる

いかす

5 小単元の目標

- 火災から地域の安全を守る働きについて、消防署などの施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、消防署などの関係諸機関や地域の人々の相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係諸機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係諸機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、学習したことを基に地域の安全を守るために自分たちができることを考えようとする態度を養う。

6 小単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
知識・技能	① 消防施設・消防設備などの配置、緊急時への備えや対応などについて、消防署などの関係機関や関連する施設を見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の諸活動を理解している。 ② 調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災などの防止に努めていることを理解する。
思考・判断・表現	① 消防施設・消防設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、問いを見だし、関係機関や地域の人々の諸活動について考え表現している。 ② 連携・協力している関係機関の働きを比較・分類したり、関連付けたりして消防署などの関係機関の相互の関連を考えたり、関係機関に従事する人々の生活を関連付けて、従事する人々の働きを考え、表現している。
主体的に 学習に取り組む態度	① 火災から地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習したことを生かして、自分のできることを考え、地域社会の一員として消防活動に貢献しようとしている。

7 単元の指導計画（12 時間扱い）

過程	時間	主な学習活動と内容
つかむ	1	○ 火事の写真やイラスト、グラフを見て気付いたことを話し合う。 ・ 消防士が火を消しているよ。 ・ 怪我人を救急車で運ぼうとしているよ。 ・ 警察官が交通整備をしているよ。 ・ 住民に避難を呼びかけているよ。 ○ これから調べていきたいことを話し合い、単元を貫く学習問題をつくる。

		・ 消防士の他に、警察や救急隊員などがいたけど、他にどのような人が働いているのだろうか。 ・ 消防士や警察の人たちが素早く現場に集まることができるのはなぜか。 ・ 消火用の水はどこから用意しているのだろうか。 ・ 消防署の人たちは火を消す以外にどのような仕事をしているのだろうか。 学習問題 火事からわたしたちのくらしを守るために、だれが、どのようなはたらきをしているのでしょうか。
	2	○ 学習問題に対する予想を立てる。 ・ 消防士が素早く現場に駆け付けることができるのは火事の通報をする 119 番に秘密があるのではないか。 ・ 火事から私たちを守るためにいろいろな人が関わっているのではないか。 ・ 火事にならないための設備が地域や学校、自分の家にあるのではないか。 ○ 予想や、前時の調べたいことを基に学習計画を立てる。 ・ 学校や自分の家、地域には、どのような設備があるのか調べる。 ・ 消防士や警察の人たちが、どのように火災現場に集まるのか調べる。 ・ 消防署で働く人たちは、どのような仕事をしているのか調べる。 ・ 消防署で働く人たちは、どのような工夫や努力をしているのか調べる。 ・ 火事から暮らしを守るために、地域の人たちはどのようなことをしているのか調べる。
調 べ る	3	○ 学校にある消防施設について調べる。 ・ 学校には、感知器や消火栓、消火器などがいろいろなところにある。 ・ 火事から私たちを守るために、学校には至るところに消防施設が設置されている。 ・ 夏休みには、学校にある消防施設の点検も行われている。
	4	○ 自分の地域やマンションにある消防施設を調べる。 ・ 地域にはいろいろなところに消火栓が設置されていた。エコパークの近くに防火水槽もあった。いざというときにそこから水を出することができる。 ・ 自分の家のマンションには送水口が設置されている。 ・ スプリンクラーがあって、煙を感知したら作動する。 ・ 幕張ベイタウンにある高層マンションでも消火できるような消防施設が整っている。
	5	○ 119 番通報の仕組みについて調べる。 ・ 119 番は、セーフティーちば内のちば消防共同指令センターにつながり、現場に一番近い消防署から、消防車や救急車を出動させる。 ・ 必要に応じて、警察署や水道局、ガスや電力会社、病院などの関係するところにも連絡される。 ・ 関係機関が、火事から私たちを守るために、連携・協力して活動している。
	6	○ 消防署 に見学に行く。

	7	- 消防署で働く人の工夫や努力についてインタビューする。 - 消防署の設備や普段の仕事について見学し、気付いたことをメモする。
	8	○ 見学してわかったことや考えたことについて話し合い、消防士の仕事や消防署で働く人の工夫や努力などをまとめる。 - 消防自動車にはいろいろな種類がある。 - できるだけ早く現場に駆け付け、確実に消火活動ができるよう、毎日訓練や点検をしている。 - いつでも出動できるように、勤務時間を工夫したり、服を着たまま仮眠をとったりしている。 - 幕張ベイタウンは高層マンションが多いので、日本最大級のはしご車がある。 - 消火活動だけではなく、建物の消防施設の点検や火災予防の呼びかけなどもしている。
	9	○ 地域の人たちがどのようなことをしているのか調べる。 - 消防団は、消防署の人たちと協力して、消火や救助の活動を行い、わたしたちを守ってくれている。 - 消防団の人たちも、器具の点検や訓練をしている。 - 幕張ベイタウン自治会連合会という組織があり、その中に防災委員会というものがある。 - 初期消火体験などができる防災のイベントを企画している。 - 地域の人も火事から私たちの暮らしを守るために活動している。
ま と め る	10	○ 学習問題について調べてきたことを、関係図に整理してまとめる。 - 消防署は、警察や病院などと協力して消火活動をしている。 - 消防署は、地域の人に火災予防の呼びかけをしている。 - 消防署は、学校の消防施設の点検を年に二回行っている。 まとめ 火事からわたしたちの暮らしを守るために、消防士や地域の人などが協力しながら、消火活動に取り組んだり火事を防いだりしている。
い か す	11 (本時)	○ 消防士の話を聞き、火事を防ぐためにできることを考える。 - コンセントにたまったほこりに火が付くと危ないのでこまめに掃除をする。 - 自分の周りで火災が起こったら、近くの人に伝えよう。 - 自分もみんなも守るために避難訓練を真剣に行おう。 - 消防施設の近くに駐車しないように家族に伝える。消防自動車が止められずに、消火活動を邪魔してしまうかもしれない。 ○ 取組の中から、これからしていきたいことを選び、理由を考える。 - 火事を発見したら、近くの人にすぐに伝えよう。消防士の方は少しでも早く現場に駆け付けられるよう、努力していたから協力したい。 - 地域の人や消防署で働く方が協力して開催している防災イベントに参加しよう。そして、ポスターをギガタブで調べて、朝の会で他の学年に紹介したい。
	12	○ 地域社会の一員として、地域の安全を守るためにできることを考える。 火事から自分たちの暮らしを守るためにできることが私たちにもあったね。

	・ 3年生の私たちにできることだから、他の学年に伝えたら火事から暮らしをもっと守れるようになるよね。 ・ 消防署の方は私たちの力が必要だと言っていたね。皆にも協力してもらうためにポスターで伝えようよ。 ○ これまで学習してきたことをもとに伝える内容をまとめる。 ・ コンセントにはこりがたまることの怖さを伝えるポスターを作ろう。 ・ 防災イベントが開催されることを放送で伝えよう。 ・ 料理中に火元から離れると危ないことを本にして、読み聞かせしよう。
--	---

8 市教研社会科研究主題解明のための方策

**新たな社会の担い手として生きる力を育む社会科学習
～児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせる問題解決的な学習を通して～**

＜本年度主題解明のための方策＞

研究内容 1 問題解決的な学習につながる教材・単元構成の工夫
研究内容 2 問題解決的な学習につながる指導法の工夫
研究内容 3 指導と評価の一体化

本単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

研究内容 1 問題解決的な学習につながる教材・単元構成の工夫

○ 消防署の方々などの努力もあり、千葉市の火事の件数は減少傾向にあるものの依然として火事は起こり続け、令和3年から令和4年にかけては24件の増加、令和4年から令和5年にかけては7月時点で6件増加している。そして令和3年の火災の原因を見ると放火、たばこ、配線関係、こんろ、電気機器と続いている。このことから火事はいつ起こってもおかしくないものであり、生活の中で火事につながってしまうことが多いことがわかる。しかし児童の実態調査から火事からまちを守ることができる人の中に自分自身を挙げているほとんどいなかった。そのために、まずは一時間ずつ丁寧に火事から自分たちの暮らしを守っている存在を調べていく。その存在を調べるだけで終わるのではなく、消防施設ならそれらを点検している人や作っている人の思いに迫れるような問いかけをする工夫をしていくことで児童の意識を少しずつ高めていきたい。また、「調べる」の場面では、毎時間の振り返りの際に、できることを記入していく。そうすることで、学校や地域、各機関と自分の繋がりを少しずつ意識していけるようにしていきたい。次に火事から自分たちの暮らしを守るために働いている消防署に見学に行く。消防署で働く人の工夫や努力を直接見たり聞いたりすることでその思いに触れることができる。そうすることで自分自身も何かできることがあるのではないかと考えるきっかけにしたい。また、「いかす」の場面の初めに見学でお世話になった消防署の方のメッセージを視聴する時間を取り入れる。火事の件数は減少傾向にあるもののゼロにならない、火事の件数ゼロを目指すためには、皆の力も必要であるといった内容を話していただく。消防署の方からのメッセージは児童たちの問題意識をさらに高め、自分のできることを考えたいという思考につながられるのではないかと考える。そして、火事を防ぐためにできることを考えたり、自分が決めた取組をどのように紹介したいのか選べるようにしたりすることで、児童が主体的に学習に取り組み、社会参画への意識を高められるのではないかと考える。

研究内容 2 問題解決的な学習につながる指導法の工夫

○ まず、「つかむ」の場面では、素材の提示の仕方を工夫する。消火活動をしているイラストを提示し、最初に燃えている家、次に消火活動をしている消防士とイラストの見える範囲を児童に問いかけ、予想させながら提示していく。そうすることで想像以上に様々な人たちが火事の現場で働いていることに気付く。また出動指令から火事の現場に到着するまで約8分であることを学校生活と結び付けながら提示する。そうすることで消防署の方々がいかに素早く出動しているか、そして119番の窓口となり、必要に応じていろいろな関係諸機関に連絡しているちば消防共同指令センターの存在に気付くきっかけにもなる。このように素材の提示の仕方を工夫することで、火事から自分たちの安全を守るためにどれだけの役割の人がいるのだろうかという驚きや疑問をもちながら問題解決的な学習につなげていきたい。

次に、「調べる」の場面では、体験的な活動を多く取り入れる。学校には、どこにどのような消防施設があるのか探しながら地図にまとめたり、消防署見学を通して消防署で働く人の工夫や努力を実際に見たり質問したりしていく。火事は児童にとって身近ではなく、消防施設も見たことがあっても何のためにあるのかわかっていない児童が多い。そのため、実際に自分の目で見て学んでいくことで、消防施設の多さや消防署の秘密に驚きをもちながら調べていくことができると考えられる。

最後に、できることを考える「いかす」の場面では、「まとめ」の場面で活用した関係図を活用する。整理してきた関係図に吹き出しで自分のできることを書き込んでいく。そして自分はそれぞれの立場の人たちにどのようなことができるのか記述していく。そのようにすることでこれまでの学習とのつながりを意識した実践的な取組を記述することが期待できる。また、火事の危険から自分たちのまちを守るために自分ができることを進んで行おうとする気持ちを育むために、自分ができる取組を答えるだけでなく、その背景にある思いや考えをもてるようにしたい。

9 本時の指導（11／12）

（1） 本時の目標

- 火事を防ぐために自分ができることを、学習してきたこととのつながりを基に考えようとして
いる。
(学びに向かう力、人間性等)

（2） 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
5	1 消防士からのメッセージを聞く。 ・火事をゼロに近づけたいな。 ・消防署で働く人も地域の人も努力していたな。自分も協力したいな。 ・今までの学んできたことを生かして自分にもできることを探したいな。	○自分にできることはないかと主体的に課題に取り組もうとする思いを高めるために、消防署見学でお世話になった消防士の方からその思いを直接聞く機会をつくる。	○タブレット PC で撮影したメッセージ動画
	火事からわたしたちの暮らしを守るために、できることを考えよう。		

10	2 火事を防ぐために、様々な立場の人に対してできることを考える。 ・消防士さんのために火事を減らしたい。コンセントにたまったほこりに火が付くと危ないのでこまめに掃除をする。 ・地域の防災のイベントに家族と参加したい。消火器の使い方や火事を発見したときの対応をみんなで学びたい。	○今までの学習とのつながりを意識して実践的な取組の記述ができるよう、「まとめ」の場面で活用した関連図に書き込めるようにする。 ○これまで学習で取り扱ってきた資料をいつでも確認できるよう、掲示しておく。 ○自分で取組を考えることが困難な児童には、今までの学習で書き溜めた「できること」の一覧表を見て、選択できるようにする。	○「まとめ」で使用したワークシート ○前時までの掲示物
15	3 考えた取組について発表し、全体で話し合う。 ・私はもしも火事が起きているのを発見したら、すぐに近くの大人に伝えたいと思います。消防署で働く人の努力や工夫を知り、協力したいと思ったからです。 ・私は地域で開催される防災イベントに家族と参加したいです。火事から自分の町を守るために自分にもできることがあるとわかったからです。 ・私は学校の消防施設の近くで遊ばないようにしたいです。学校の消防施設の多さに驚き、年に2回も点検している人たちがいることを知ったからです。 ・私は家できちんと掃除をしたいと思います。コンセント火災が多いことを学習して初めて知ったからです。  ・地域の人のためにも自分たちができることはあるんだな。 ・火を使うときに気を付けることばかり考えていたけど、電気火災を防ぐ取組も必要なんだな。	○様々な視点からの意見を共有できるよう、机間指導時に、4種類（消防署、地域、学校、家庭）の児童の意見をピックアップしておく。 ○児童が発表する際には、考えた取組だけではなく、考えた理由や根拠を言うように伝える。 ○児童が発表した取組とその理由を端的な言葉で板書する。 ○児童が発表した取組とその理由について、どの立場に対するものなのかわかるようにまとめる。 ○いろいろな視点に気付き、視野が広がるよう、友達がどの立場の人にとどのような協力をしようとしているか、考えながら聞くように伝える。	

15	4 取組の中から、これからしていきたいことを選び、理由を考える。 ・家のコンセント周りは掃除をしよう。僕にもできることで、家での火事を減らしていけるからね。 ・火事を発見したら、近くの大人にすぐに伝えよう。消防士の方は少しでも早く現場に駆け付けられるよう、努力していたから協力したい。 ・地域の人や消防署で働く方が協力して開催している防災イベントに参加しよう。そして、ポスターを作って、朝の会で他の学年に紹介したいな。	○様々な観点から火災を防ぐことができるよう、火事の予防だけでなく、火事が起きた際の対応に視点を当てたものについても認める。 ○今までの学習を踏まえてどのような思いからその取組を選んだか確認できるように、理由について問い返すようにする。 ○次の学習に生かせるよう、自分だけではなく学校や地域に対する取組に目を向けている児童を取り上げる。 ◆火事を防ぐために自分ができることを、学習してきたこととのつながりを基に考えようとしている。(発言・ワークシート) <主体的に学習に取り組む態度>	
----	--	---	--

10 資料

① ワークシート（「まとめ」で記入する前）

火事からわたしたちのくらしを守るために、だれが、どのようなはたらきをしているのだろうか。

関係機関(警察、病院、ガス会社など)

消防署



家(マンション)



ちば消防共同指令センター



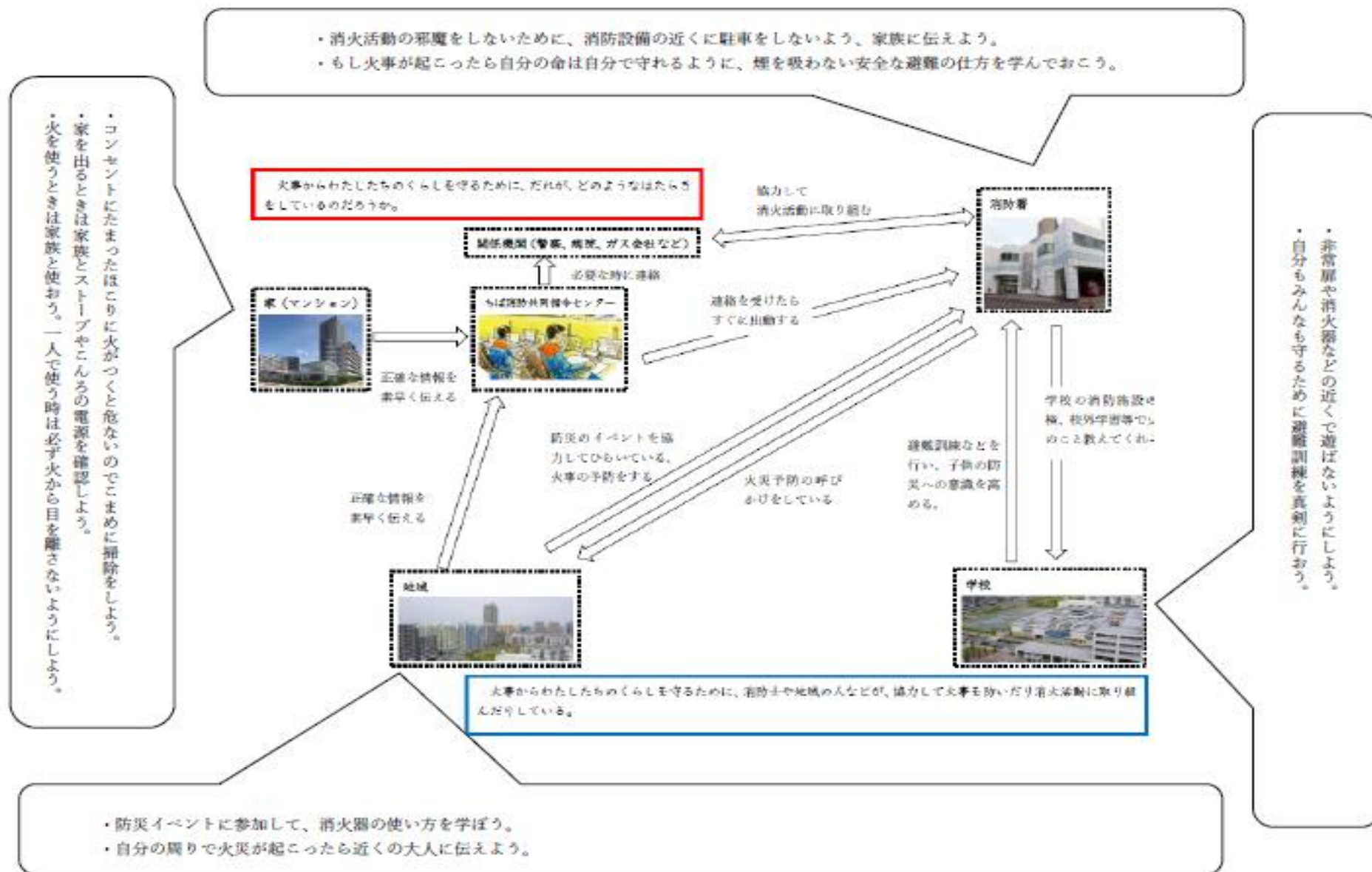
地域



学校



② ワークシート（児童が「生かす」で記入した際の完成例



③ 「生かす」で使用するメッセージ動画の原

ん	か	守	力	皆	火	な	の	し	葉	聞	頑		い	か	も	に	外	消	
な	し	り	が	さ	事	か	人	ま	市	い	張	私	、	ら	う	つ	学	防	
で	て	ま	大	ん	の	な	た	っ	で	て	っ	は	動	皆	れ	い	習	署	
自	、	す	き	の	件	か	ち	て	は	い	て	先	画	さ	し	、	で		
分	で	。今	な	の	数	火	も	い	、	ま	消	生	を	ん	か	真	来		
た	き	まで	力	協	を	事	学	ま	毎	。皆	防	た	撮	に	つ	剣	て		
ち	る	調	に	力	ゼ	の	校	。消	年	さん	の	ち	っ	あ	に	学	く		
の	こ	べ	な	も	ロ	件	も	防	2	も	こ	か	て	る	ぼ	れ			
町	と	て	り	必	に	数	努	署	0	知	と	ら	い	メ	う	ま			
を	を	学	、	要	近	が	力	で	0	っ	に	皆	ま	ッ	と	し			
火	考	ん	火	で	づ	ゼ	を	働	件	て	い	さん	す	セ	し	て			
事	え	で	事	皆	け	ロ	し	く	以	い	学	が		ー	、	私			
か	み	き	か	さん	て	に	続	私	上	る	習	今		ジ	今	た			
ら	ま	た	ら	一	い	は	け	た	の	通	し	ま		を	日	ち			
守	せ	こ	べ	人	く	な	て	ち	火	り	て	で		届	は	の			
り	ん	と	イ	一	た	り	い	も	事	、	き	た		け	お	仕			
ま	か	を	タ	人	め	ま	ま	地	が	千	と	く		た	仕事	事			
し	。み	い	ウン	一	に	せん	す	域	起		さん	さ		い	と	校			
よ			を	人	は	。の	が		き			ん		思	ち	て			
う				の	、	。	、		て										

。

20 × 20